

成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)

enPiT-Pro 事後評価結果の総括

令和5年1月30日

成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT) 事業委員会

成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)は、産学協働の実践教育ネットワークを形成し、実践的な教育を推進し広く全国に普及することを目的とする事業である。平成29年度には、情報科学技術分野を中心とする体系的かつ高度な社会人向け実践教育プログラムを、産業界・複数大学の協働により開発実施し、その成果を広く全国に普及させることで、我が国における同分野全体の社会人学び直し機能を強化することを目的に、新たなメニュー「enPiT-Pro」として5件の先駆的な取組を採択した。このたび、令和3年度末をもって当事業の補助期間が終了したことにより、事業の実績及び成果を確認することを目的に、事後評価を実施した。

事後評価の評価結果は、「S：優れた取組結果であり、事業目的は十分に達成されたとともに、想定以上の成果が得られたと判断される。」が2件、「A：計画どおり事業目的を達成することができたと判断される。」が2件、「B：当初の事業目的のうち一部達成することができなかったと判断される。」が1件である。

これまで当委員会より示された指導・助言を参考とし、新型コロナウイルスの感染拡大により教育環境のみならず社会全体が大きく変化した中、企業等に所属する社会人を主な対象とした本事業において、e-learning コンテンツ等のオンライン教材の活用を力を入れるなど、社会ニーズを踏まえた臨機応変な対応や様々な工夫を凝らすとともに、大学間・産業界間の密接な連携のもと、事業の推進に取り組んだことは高く評価したい。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響によりプログラムの展開等が困難な中、多様な教育手法を活用することで、産学協働のもと多くの受講生・修了生の実績を上げたことから、当初の目的である大学における情報技術人材の育成強化及びその普及は達成されたと言える。

また、専門分野の人材育成には、当該分野における優れた教員が存在し、取組を牽引することが不可欠であるため、各大学においては、本事業で構築された産学協働のネットワークを活かすとともに、採択校間での協力関係を引き続き継続していただくことを強く期待する。

最後に、情報技術人材の育成については、事業開始当時よりさらにそのニーズを増している。その国家的課題に先駆的に挑戦する5つの取組について全国の大学に普及し、当事業が礎となることにより、我が国の目指すSociety5.0の実現に寄与することを切望する。

以上

成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT) enPiT-Pro
事後評価結果

代表校名	名古屋大学
取組名称	成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)

成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT) 事業委員会による評価

[総括評価]

S：優れた取組結果であり、事業目的は十分に達成されたとともに、想定以上の成果が得られたと判断される。

[コメント]

名古屋大学を中心とした5大学の連携が有機的に図られている。特に、各大学が強みとする専門分野の科目を他の連携校に提供し、社会人に対して効果的な教育を実施したことや、補助期間終了後においても継続的に教育活動を実施するために、大学間で教材や講義を提供する場合、これら教育コンテンツに係る受講料収入を連携大学間に配分できる仕組みを構築し、協定書により担保している点は、優れた取組として特筆に値する。

また、新型コロナウイルスの感染拡大等の影響により、対面での教育が制限される中、e-Learningコンテンツの強化や遠隔教育においても実習を行うなど、逆境下においても多くの修了生を輩出したことは高く評価する。

さらに、企業からの受講派遣が遠隔教育等の活用により滞りなく実施することができたのは、企業連携やアンケート調査結果の反映が適切に行われてきたことを示しているとともに、100社以上の企業が本プログラムへの受講料補助を実施していることから企業の信頼が厚いということが分かる。補助期間終了後においても、企業等のニーズを踏まえ、社会から求められる教育プログラムの提供を実施することを期待する。

最後に、補助期間終了後においても、本事業により構築した大学間・産業間並びに採択校間における連携やPDCAサイクルの中で培った知見や手法を整理し、そのノウハウを積極的に他大学に普及・展開するとともに、引き続き優れた情報技術人材を育成いただきたい。

成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT) enPiT-Pro
事後評価結果

代表校名	北九州市立大学
取組名称	地域産業の競争力強化を図る人工知能とロボット技術を駆使した IoT 技術の社会実装を推進する実践的人材育成コースの開発・実施

成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT) 事業委員会による評価

<p>[総括評価]</p> <p>A：計画どおり事業目的を達成することができたと判断される。</p>
<p>[コメント]</p> <p>製造業、自動車産業、介護産業、農林畜産業、観光業という5つの産業別プログラムを設計し、九州・中国地域の大学や産業界と密接に連携した上で、地域が抱える共通課題を念頭に、地域密着型の取組を行ったことは評価できる。</p> <p>また、社会人が学びやすいよう複数年度による修了認定の導入や、遠隔受講可能なオンライン実習、複数拠点で受講を可能とするなど、新型コロナウイルスの感染拡大の影響下においてもプログラムを円滑に実施するための創意工夫を行ったことは評価できる。</p> <p>VODの公開継続による普及・展開活動や内製化した受講管理システム等の優れた成果の活用や、新型コロナウイルスの感染症拡大の影響を受けた各コースのニーズを検証することなどにより、本事業を通じて得た知見や経験を補助期間終了後の取組に活かしつつ、更なる地域への貢献を進めていただくことを期待する。</p> <p>また、地域のニーズは時代とともに変化していくため、積極的に地域ニーズを把握し、そのニーズを踏まえた分野に取り組むなど、柔軟な対応が望まれる。</p> <p>最後に、補助期間終了後においても、本事業により構築した大学間・産業界並びに採択校間における連携やPDCAサイクルの中で培った知見や手法を整理し、そのノウハウを積極的に他大学に普及・展開するとともに、引き続き優れた情報技術人材を育成いただきたい。</p>

成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT) enPiT-Pro
事後評価結果

代表校名	東洋大学
取組名称	ICT ベースの社会形成のための文理融合のための ICT 教育

成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT) 事業委員会による評価

<p>[総括評価]</p> <p>B：当初の事業目的のうち一部達成することができなかったと判断される。</p>
<p>[コメント]</p> <p>本事業を契機に、多数の民間企業に応じた独自プログラムを実施するなど、リカレント教育プログラムを継続的に実施可能な体制を確立するとともに、補助期間終了後も安定したプログラムを実施するために、受講者の負担も踏まえた受講料徴収の継続、職業実践力育成プログラムや専門実践教育訓練講座の指定を活用した安定的な体制を構築したことは評価できる。</p> <p>一方で、連携校間でのネットワークは限定的であるとともに、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う受講者数の減少に対して、プログラム実施方法を含む事業計画の見直しや柔軟な工夫の検討が十分であったとは言えないため、補助期間終了後の取組においては、構築したネットワークを活かすとともに、本事業で得られた知見をリカレント教育等に活用されることを期待する。</p> <p>最後に、補助期間終了後においても、本事業により構築した大学間・産業間並びに採択校間における連携や PDCA サイクルの中で培った知見や手法を整理し、そのノウハウを積極的に他大学に普及・展開するとともに、引き続き優れた情報技術人材を育成いただきたい。</p>

成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT) enPiT-Pro
事後評価結果

代表校名	早稲田大学
取組名称	スマートエスイー:スマートシステム&サービス技術の産学連携イノベーション型人材育成

成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT) 事業委員会による評価

<p>[総括評価]</p> <p>S : 優れた取組結果であり、事業目的は十分に達成されたとともに、想定以上の成果が得られたと判断される。</p>
<p>[コメント]</p> <p>構成大学 14 校、計画を大きく超える 30 以上の企業・団体による大規模全国ネットワークを構築した上で、役割を明確にし、多様で充実した教育プログラムを開発・実施できたということは高く評価できる。</p> <p>特に、各科目について、ITSS+および iCD に対するスキルマッピングの実施・公開したことや、総合実践である「スマート IoT システム開発演習」や「修了制作」を必修とするとともに、「修了制作」の成果について、各大学において評価のばらつきが生じないよう同様の基準による厳正な審査が行うとともに、基準に満たない者は再審査を行うといった学修の質保証を実施したことは、修了生が学会等で評価を受けたこと等からも、優れた取組として特筆に値する。</p> <p>さらに、「スマートエスイー提供講座」として JMOOC 上で無償オンライン提供をし、4 年間で延べ 9 万人超の受講登録がなされたことは、全国への普及と当プログラムへの誘導が実効的に図られていることを示しており、社会人学び直し機能の強化に繋がっていると考えられるため、これらを含む事業全体の成果を新たな取組に活用されることを期待する。</p> <p>最後に、補助期間終了後においても、本事業により構築した大学間・産業間並びに採択校間における連携や PDCA サイクルの中で培った知見や手法を整理し、そのノウハウを積極的に他大学に普及・展開するとともに、引き続き優れた情報技術人材を育成いただきたい。</p>

成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT) enPiT-Pro
事後評価結果

代表校名	情報セキュリティ大学院大学
取組名称	企業・官公庁等の IT 実務、OT 実務、設計・製造実務における情報セキュリティに関わるプロ人材育成コースの開発・実施

成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT) 事業委員会による評価

<p>[総括評価]</p> <p>A：計画どおり事業目的を達成することができたと判断される。</p>
<p>[コメント]</p> <p>事業の実施に当たって、運営委員会、幹事会を設置し、連携大学間の連携を密に活動してきたとともに、連携大学が地域企業群と連携し、各地域での産業ニーズに合わせた幅広い教育コースを提供したことは評価できる。</p> <p>また、日本ネットワークセキュリティ協会と連携し、事業の広報、受講生への企業支援の拡充を行うとともに、会員企業から実務家教員を連携大学に紹介することにより、事業の効果的な普及や実務家教員が他の大学において情報セキュリティに関する教育プログラムに関与することに貢献したことは評価できる。</p> <p>社会人のニーズに応えるため、各連携大学において夜間や土曜日に開講することや、遠隔授業の実施、復習のための e-Learning 教材の提供を行うなどの工夫が見られた。さらに、社会人が短期間に集中して必要な知識を学べるようにとクイックコースの提供を行ったが、社会人のニーズと一部合わない点が見受けられたので、この経験を今後の取組に活かすことを期待する。</p> <p>また、セキュリティ分野については、昨今社会的ニーズや関心が高くなっているため、補助期間終了後においても、社会から求められる人材の養成に積極的に努めることが望まれる。</p> <p>最後に、補助期間終了後においても、本事業により構築した大学間・産業間並びに採択校間における連携や PDCA サイクルの中で培った知見や手法を整理し、そのノウハウを積極的に他大学に普及・展開するとともに、引き続き優れた情報技術人材を育成いただきたい。</p>